昭和18年9月10日　鳥取地震の斷層

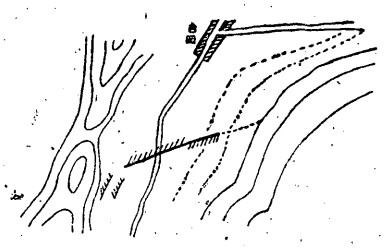
高木　聖*　野依一郎*

筆者の一人は[1]當時他に緊急なる仕事をひかへてゐた爲め，漸く翌年の5月になつてやつと調査に出かける事が出來た。しかしこの時はもう農耕も始まつてゐたし，雪の下になつて溶けた個所も多かつたので，詳しい調査は出來なかつた。けれども筆者は私用にて，その年の12月初頭歸鄉した際吉岡斷頃のみは詳らかに調査するを得たのである。

今度の斷層は昭和18年9月10日の地震によるもので吉岡の南と鹿野の南に一本づつ雁行して出來た。

吉岡斷層：この斷層は吉岡溫泉のすぐ南に南北に通ずる道路を斜に横切つて出來た。その水平喰違は道路の所で60糎，落差31糎であり，北側が落ちて東に寄つてをるのである。これは第1圖に示すやうな地形の所にある。即ち東西共に山があり，ちようどその中間に出來たわけである。しかもこれをよく見ると西の山を切斷する事なく，その麓の所で第1圖の示すやうにふくれ上つてゐた。それから東の山はかなり上まで赤土は切れてをるけれども，山頂に近づくに從つてその移動量は少くなり，山の岩盤で切れてをる所は見當らなかつた。それからその山を東に越して又沖積層に出たあたりは震度も相當と思はれ，川淵等の崩壞もかなりあつた。しかし大體にして水平移動の見えるのは第2圖に示す範圍だけであつて，こゝだけを見てをると，兩方の山から壓縮されて中間の柔かい部分だけが切れたかの觀を呈してをる。これは曾つて藤原咲平博平が北伊豆斷層の說明に用ゐられたやうな力が作用して出來たやうに思へる。[2]それは鐵道蛇曲現象を作つた力と同一のものではなからうか。[3]ちようど斷層の走向と鐵路の走向が45°傾いてをるのも注目させる事である。

第1圖　吉岡斷層



鹿野斷層：これについては平野烈介技師の詳しい調査があるのでこゝには略す。

---

*中央氣象臺　(1)　高木　聖　(2)　藤原咲平：模型實驗との比較，驗震時報第4卷（昭和5年）
(3)　筆者：本誌　1頁